

ラオス

1. 概況

ラオスは、ここ数年 5%以上のGDP成長率を達成しており、2003年10月～2004年3月の間のGDP成長率は、6.4%となったが、依然として一人当たりGDPは、350USドル（2003年度）と低水準に留まっており、貧困解消が経済上の大きな課題となっている。

主要な産業は農業で、GDPの5割を占めているが、近年、Sepon 鉱山の開発等を反映し、産業部門の比率が高まりつつある。鉱業・砕石業のGDP成長率は、2001年度1.2%が、2002年度は10.1%、2003年度は267%に達しており、鉱業は、輸出、外国投資等の増加によりラオス経済への貢献が大きく期待されている。2003年10月～2004年9月の間で、24件の鉱物資源探査・開発事業が認可され、総投資額は3億1,200万USドルに達するとされている。

2. 鉱業政策

鉱業法（Mining Law）については、1997年4月施行されており、環境保護法が1999年4月に施行されている。また、環境保護法の規定を受け、2004年には、「鉱業部門における環境保護及び鉱山保安・労働衛生令」が策定されている。

3. 主要鉱物の生産動向

主要鉱物の生産量は以下のとおり。

主要鉱物生産量

	2001	2002	2003
金 (kg)	-	-	5,140
銀 (kg)	-	-	3,850
錫鉱石 (千 t)	0.5	0.4	0.4
亜鉛鉱石 (千 t)	29	1	1
石炭 (千 t)	123	234	230

Source : USGS 推定を含む。

4. 鉱山会社活動状況

国営鉱山公社の採掘操業は、Savannah 県の DongHene での石膏鉱山、Vientiane 県の Bochanh における無煙炭鉱山、Nalamegでの重晶石鉱山のみとなっている。

5. 鉱山・精錬所活動状況

Sepon 鉱山

同鉱山は、Savannah 県に位置し、Oxiana Resources 社が、2003年1月から、金の生産を開始している。2004年の生産量は、金が前年比15%減の141,213oz、銀は、前年比29%減の87,920ozとなった。減産は、雨季の大雨のためとされている。金鉱石の平均品位は、3.01g/tであった。

同社は、隣接する Khanong 銅鉱床の開発を進めてきており、SX-EW法による年産6万tの銅生産を計画し、2003年から、精錬施設を含めた建設工事に着手、2005年3月には、予定より2週間早く銅カソードの製品を初めて出荷した。製品は、タイ等の周辺国に供給されるが、GMS（メコン川流域開発計画）で道路整備等が進行している東西回廊を利用した輸送となっており、地域開発と一体となった鉱山開発が進展している。

Phu Bia 鉱山

同鉱山は、ビエンチャン北西約105kmに位置し、Pan Australian Resources 社が、2002年から金鉱床探査を開始、2005年5月に操業を開始した。年間生産量は5万ozが計画されている。

同鉱山に隣接する Phu Kham 銅・金鉱床については、2005年8月までにFSを完了させる予定であり、銅鉱石品位約0.5%、年間57,000tの銅精鉱生産が見込まれている。

(2005.5.27/バンコク事務所 市原 秋男)